

2024年3月期 第2四半期決算説明会（2023年11月10日開催）

質疑応答要旨

---

代表取締役社長 CEO 中島 英雅

執行役員 財務担当 松崎 靖秋

【Q】

IRA法により、具体的にどのような影響がありましたか。

【A】

日本国内で組み立てられ米国へ輸出される電池が、IRA法による補助金の対象外となったため販売数量が大きく減少しました。営業利益において約2億円の影響を受けております。

【Q】

米国での事業は補助金の対象になるのでしょうか。

【A】

IRA法改正により、それまで対象外であった銅箔が所謂「クリティカルミネラル」の категорияに追加され、銅箔製造事業は補助金の対象になると見えています。現在、どのように進めるかを検討中です。

【Q】

整流器復旧スケジュールは予定通りに進みそうですか。

【A】

2基目の整流器について、11月の後半に米国カムデン工場に入り、据え付け工事を実施します。予定通り11月末には立ち上げ、製造に資する見込みです。

【Q】

米国で多くの電池工場が立ち上がってくると思いますが、顧客からの引き合いや採用状況はどうですか。

【A】

当初、米国における電池工場立ち上げ計画が多く予定されていると報道がありましたが、最近の報道によれば若干減速しているのではないかとされています。従来の工場の増加傾向は変わりませんが、若干後ろ倒しになりつつあるのではないかと動きも事実です。

そういった状況でも、既存のお客様に向け、実際の立ち上げ計画や認証作業の計画を進めています。それ以外にも、当社電池箔の特性をお客様の製品に合うようにカスタマイズして欲しいなどといった様々なお声がけもいただいております。そういった意味で期待は非常に大きいと感じております。

【Q】

電力コストの転嫁について進捗状況を教えてください。

【A】

電力のコスト転嫁は、現状では販売規模に対して約 4 割と考えております。残りの 6 割のお客様につきましては引き続き交渉中です。

【Q】

挽回策のうち、会社として期待している領域、また、今後売り上げが大きく伸びると注目している製品はどれですか。

【A】

既に、国内のラインが立ち上がっているお客様では、当社製品を専ら使用いただく形で量産も進んでいる状況となります。足元からもう少し先をみますと、国内外のお客様と新しい電池箔と一緒に開発し、お客様の新しい工場の立ち上げに合わせて開発している製品がございます。1～2 年の間に立ち上がる見込みです。ミドルレンジでの売上拡大を期待している領域となります。

基板箔は、ハイエンド向け製品を進めており、既に様々な企業様と開発を進めています。日本国内の企業様と進めている製品に関しては既に開発が完成形に近づいており、認証作業に入りつつある段階です。今年度の後半から来年度にかけ販売できると考えています。一方で、基板のミドルグレードの Denkai America 製品をお使いのお客様が、東南アジアでハイエンドの製品を作っているものの、同じアジアである日本に当社工場があるということで、当社のハイエンド製品を使いたいといったお声が複数あり、一部のお客様には 1 Q からすでに製品を提供しております。

【Q】

収益性を確保するための取り組み、施策について、その効果も併せて説明してください。

【A】

収益性を確保するための取り組み・施策については、具体的には、販売数量の増加に加えて、製造現場における歩留改善、生産性向上により収益性の改善に向け、全社を挙げて取り組んでいます。効果そのものは、具体的な課題を設定して毎月レビューを行い、着実に上がっているものと思っております。

【Q】

Denkai America での事故は不運だったと思いますが、再発防止策は大丈夫でしょうか。

【A】

Denkai America の整流器事故については雷と推定される、というのが現状の判断です。カムデン工場は避雷針がありますが、外部の変電設備に落ちた雷が、電線やケーブルを通じて大きな影響を受け、当社の整流器に影響を与えたと考えられています。再発防止策について、基本的に外部で大きな電圧変動が起こったものに関しましては難しい部分もございます。同社内では、大きく 2 つの対応策を講じております。2 基同時に故障となりましたが、予備品は 1 基分持っており、1 基については可及的速やかに交換することができました。2 基目につきましては、整流器の部品が特注品であり製作から行ったということで非常に時間がかかりました。今回、この点を反省し、製作に時間がかかるような部品は、予備品の数をしっかりと確保することで、既に発注しております。

また、アラームや警報が鳴れば直ちにシャットダウンができるのですが、今回シーケンサーの処理が電撃を受けうまく作動しなかったということ分かっており、アラーム機能を二重にすることで、どちらかが生き残って直ちにシャットダウンすることができるよう防止策をとっております。

【Q】

短信 BS の建設仮勘定（建仮）は 97 億円ほどと前期末比 20 億円以上増加していますが、オーガスタ対応という理解でよろしいでしょうか。どのような設備を購入されているのでしょうか。

【A】

建仮が前期から増加した内容は、殆どがオーガスタ用です。銅箔製造設備には、電機品も含め製作に時間がかかる物品があります。例えば、PLC やブスバー、製箔用ドラムといった物品を先行手配・発注しており、事前に購入しております。

【Q】

固定費圧縮とは？

【A】

当社では IoT 活用による業務効率化、生産性向上、経費削減を実践して、実際に圧縮を進めています。

【Q】

新製品の進捗は？

【A】

現在様々な新製品をお客様と一緒に開発中でございます。高容量 LIB につきましては、全固体電池用銅箔、あるいは形状が全く異なる電池へ適合する銅箔の開発を行っております。早いものと 2025 年くらいから製品化するものでございます。既に製品化しているものと、一部の高容量 LIB につきましては、10 月からリリースしておりまして、お客様 のライン立ち上げに伴い量が増えていく状況です。

一方、回路基板箔は、現在 5 G 等を中心として粛々と進めており、既に具体的な製品としてお使い頂ける段階にございます。年度末から来年に向けて量産ができる段階と考えております。これらの開発は、色々な企業様と進めており、先ほど申し上げた、Denkai America のお客様が東南アジアで製作しているハイエンド製品に関し、同じアジア圏ということで日本（当社）の銅箔を使いたいという新製品のお話や、数社様とサンプルワーク、既に 1 社は立ち上がっているなど、種をまきながら一緒に進めているというサイクルを回している状況です。

【Q】

高容量 LIB は顧客にとってどのような採用メリットがありますか？

【A】

高容量 LIB 用の銅箔は、非常に薄い銅箔となっています。薄い銅箔を入れるということは、銅の体積が減ることで、同じ体積の電池の中により多くの活物質を入れることができるということで、お客様としては同じ体積で大きな出力を得る、あるいは同じ出力ですとコンパクトな電池を作ることができるというメリットがあります。

【Q】

米国オーガスタ新工場の年内着工はどの程度の確度があるのでしょうか。資金調達について調整中とありますが、最終段階に近い状況ということでしょうか。

【A】

年内着工を目指して資金調達をしている状況です。オーガスタ新工場の設計は 85%以上終わっており、ゴーサインが出ればすぐに取り掛かれるという段階です。細かなチューニングは残っていますが、85%以上の設計は完了しています。一度開始すれば資金需要が一気にあがりますので、最終的な資金調達の確度を上げるという作業をしています。

【Q】

米国内のビジネスで補助金を契機とする展開は考えられますか。

【A】

米国のエネルギー省が銅箔をクリティカルミネラルにリストアップしたということで、大きく進展すると考えています。IRA 法には大きく2つ項目があり、先端エネルギー製造の投資のための税額控除が30%となります。もう一つは先端製造の生産の比例税額控除がありまして、生産コスト10%を控除する、無期限に採用される点が明らかとなりました。両方の補助金を獲得することはできないため、しっかりと検討して活用したいと考えております。ただし、申請から2年くらいかかるのではないかという話もあり、速やかに進めたいと考えております。